

家族で取り組む省エネ大作せん

富士宮市内小学校

長倉さん

四年生になって、社会科や白糸学習でアース・キッズチャレンジや富士宮市のゴミの事についてかんきょうの事を学びました。

家の電気・水道・ガスのメーターチェックをして、一週間で使った量から一週間で出た二酸化炭素の量(重さ)を計算して前の週とくらべました。ぼくは、電気とガスをチェックしました。計算すると両方で二十三キログラム、二酸化炭素のはい出量を入らす事ができました。二リットルのペットボトルで表すと約六千本分をへらした事になります。部屋の電気をこまめに消す事や、お風呂のシャワーは使う時に出す事や追いたきをしない様に順番にどんどん入る事を作せんを立てて家族で協力して取り組んだ結果でした。

ぼくは、夏休みゴミ集めの手伝いを続けていました。このごろ、ゴミが多くなったと思っていました。夏休み毎日ぼくと大きいおばあちゃんの家ですごします。おぼんもあつて家ですごす人数がふえました。ごはんの支度の回数がふえてゴミも多くなって、ゴミ出し日はゴミが重くなって大変だとおばあちゃんが話していました。これは、また作せんを立てないといけないと思いました。まずゴミのチェックをし

した。とうもろこしのしんがとくに重くさせていました。あとは、たまごやトマトなどのパッケージがかさばっていました。ときどき、トイレットパーのしんや空箱などざつ紙としてリサイクルできる物も入っていました。ビンやカンやペットボトルなどを分別する習かんはついていけるけれど、ざつ紙の分別ができていないなと思いました。そこで、もえるゴミと別にざつ紙入れのゴミ箱をおく事にしました。家族が分かるように「ティッシュ空箱」「トイレットパーのしん」「ふうとつ」「紙」などと書いておきました。そうすると、意外とざつ紙が多くありました。家族みんな得意きしてゴミを分別する事ができました。

せいそうセンターでもやすゴミがふえると、機械を動かすための電気やねん料代が高くなります。回しゅう車の台数もふえます。そうなると、二酸化炭素量がふえて地球温だん化のげんいんとなります。

地球のかんきょうを守るために、取り組み方を家族で話し合いました。食べ物大切にすること、リサイクルできる物を分別すること、物をゆずり合って使う事、買う時に本当に今ひとつよいかどうか考えて買うようにすることです。一人一人が得意きして、今できる事から続けて行動する事が大切だと感じました。

おばあちゃんが週二回ごみを出す時に、少し軽くなって楽になった

とよろこびました。